

平成 20 年度第 1 回日本海スルメイカ長期漁況予報

今後の見通し（2008 年 5 月～7 月）

対象魚種：スルメイカ

対象海域：日本海

対象漁業：主にいか釣り漁業

対象魚群：主に秋季発生系群

- (1) 来遊量：近年平均並み（昨年を上回る）。
ただし、5 月の山陰では近年平均を下回る。
- (2) 漁期・漁場：北上が早く、漁期の経過は早い。
- (3) 魚体の大きさ：近年平均並み。山陰では大型が少ない。

* 近年は最近5年間(2003年～2007年)

I 漁況予報

漁況の経過および資源調査結果（昨年 10 月～11 月の日本海スルメイカ稚仔分布調査結果、および今年 4 月のスルメイカ新規加入量調査）を主要な情報として、今期（2008 年 5 月～7 月）の日本海におけるスルメイカの漁況を下記のとおり予測した。

【予測】

今期（2008 年 5 月～7 月）の日本海におけるスルメイカの漁況は、北陸以北では昨年を上回り、近年平均並みと予測される。ただし、5 月の山陰では昨年および近年平均を下回る見込み。水温が平年よりもやや高いと見込まれることから、魚群の北上が早く、漁期の経過は早いと予想される。

【情報】

- (1) 今年 3 月～4 月の山陰以西の漁況は低調であり、漁獲量が昨年および近年平均を下回った。
- (2) 対馬暖流域の水温は、今期間平年よりも「やや高め」に推移すると予測されている。
- (3) 2007 年 10 月～11 月のスルメイカ幼生の分布調査結果では、1990 年代以降ではかなり低い水準にあったが、平均採集個体数が 2006 年を上回った。
- (4) 今年 4 月に実施した新規加入量調査結果では、今期に漁獲加入すると予想される外套背長 5cm 以上のスルメイカが大和堆南西沖で多く採集され、平均採集個体数が昨年を上回った。

II 説明

1. 漁況の経過

日本海では、3月から予報期間の前半（5月まで）は昨年の春～夏に生まれたスルメイカが主に山陰以西で漁獲対象となる。

今年の山陰以西の漁獲量は、1月～2月は近年平均並みであったが、3月は大きく減少し、昨年および近年平均を下回った（図1）。境港では4月に入っても昨年を大きく下回る水準で経過した（図2）。したがって予報期間の前半（5月まで）は、漁況が昨年を下回ると予想される。また、昨年の春～夏に生まれたスルメイカ（大型）の来遊量が少ないことから、山陰では大型が少ない見込み。

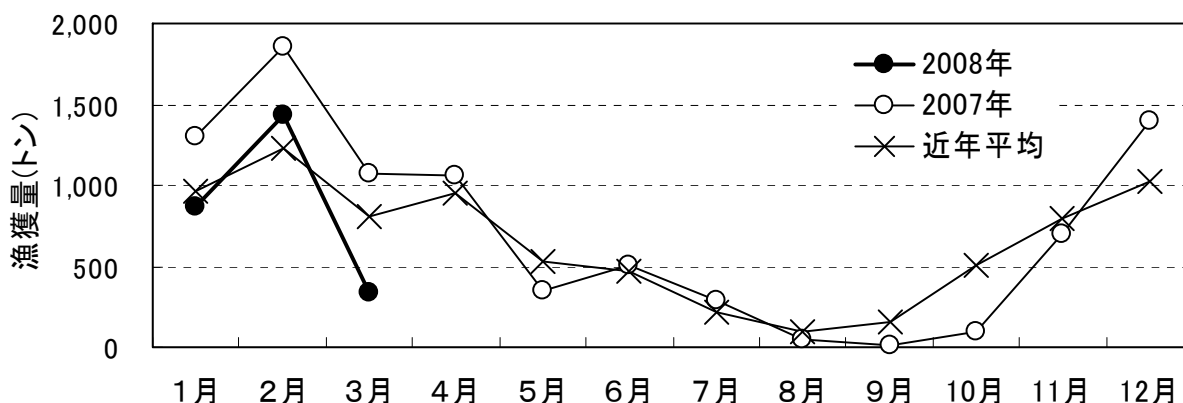


図1 山陰以西（兵庫県～長崎県）におけるスルメイカの月別漁獲量。各県試験研究機関集計資料より作成。

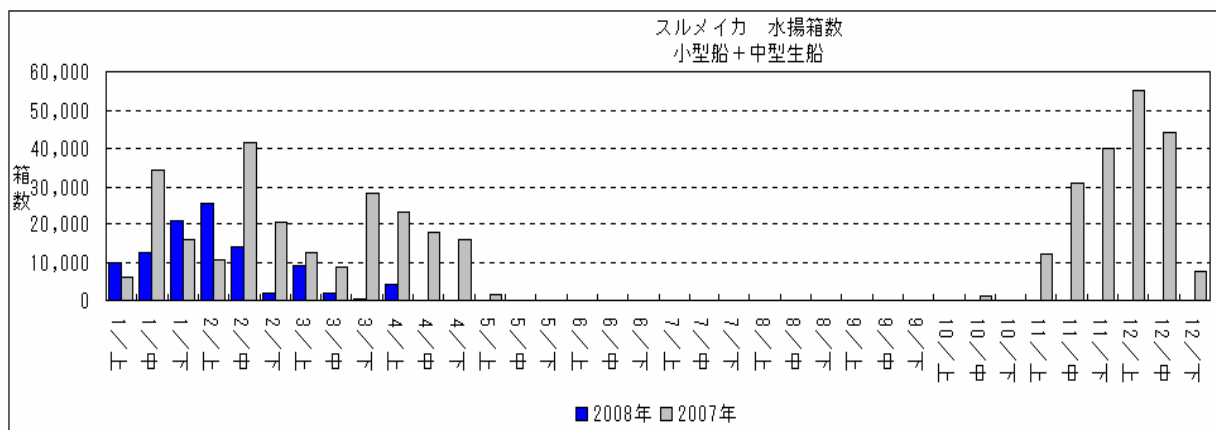


図2 鳥取県（境港）におけるスルメイカの漁獲量

鳥取県水産試験場のホームページ

<http://www3.ocn.ne.jp/~tthome/sakairyomoyou/sakairyomoyou.htm> より

2. 海洋環境

平成20年度第1回日本海海況予報*1)によると、3月の表面水温は概ね「平年並み」であるが、佐渡北西では平年よりも「やや高め」～「かなり高め」であった。今後（4月～6月）は、対馬暖流域の水温は表面および水深50mとも平年よりも「やや高め」で経過すると予測されている。したがって、今期のスルメイカの魚群は北上が早く、各地の漁期の経過も早いことが予想される。

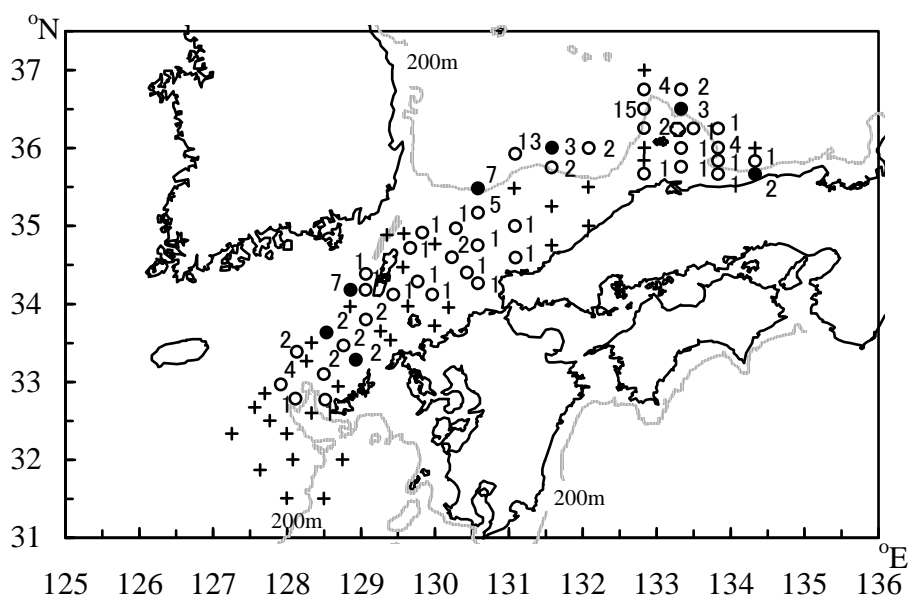
*1) <http://jsnfri.fra.affrc.go.jp/kenkyu/yohou/H20yohou/yohou080409.pdf>

3. 昨年秋の幼生分布量

日本海では5月下旬～10月に前年秋～冬に生まれたスルメイカが主に漁獲される。したがって、前年秋～冬のスルメイカ幼生の分布量は、日本海へのスルメイカの来遊量を予測する資料となる。

2007年10月～11月に実施したスルメイカ幼生の分布調査^{*2)}の結果(図3)では、1調査点あたりの平均採集個体数は1.56個体であり、2006年(1.35個体)を上回った(116%)ものの、近年平均(2.08個体)の75%であり、1990年代以降の中では低い水準であった(図4)。

*2) 幼生の分布調査：口径45cmのプランクトンネット(網目0.33mm)を用いた採集調査。各調査点で水深150mまでの鉛直曳によって主に外套背長1～3mmのスルメイカ幼生を採集する。



孵化直後のスルメイカ幼生
(外套背長約1mm)

図3 2007年10月～11月におけるスルメイカ幼生の分布調査結果

○幼生が採集された調査点、●孵化直後の幼生が採集された調査点、+幼生が採集されなかった調査点、
図中の数字は各調査点における採集個体数

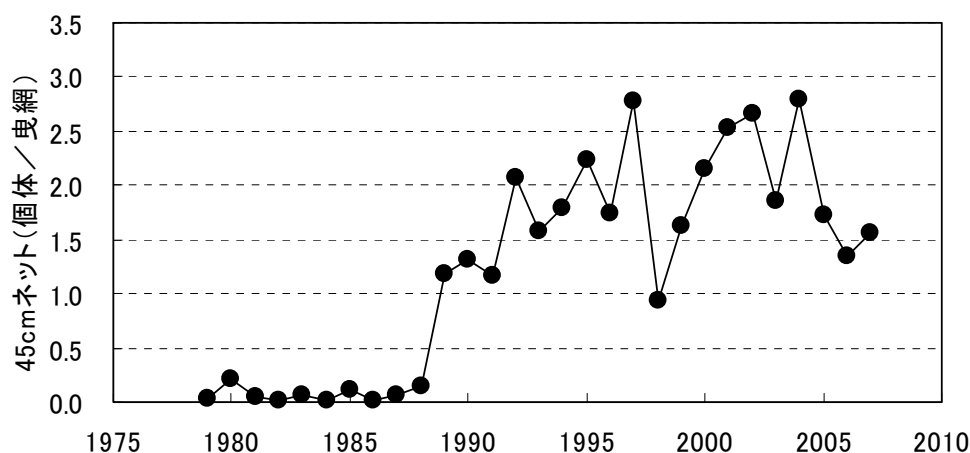


図4 スルメイカ幼生の1調査点あたりの平均採集個体数の経年変化

4. 加入前の分布量

イカ釣り漁業では外套背長 15cm 以上のスルメイカが主な漁獲対象となる。したがって、漁獲対象前のスルメイカ（主に外套背長 2cm～10cm）の分布状況を事前（4 月）に把握することで、今期の漁況を予測することが可能になる。

2008 年 4 月に実施したスルメイカの新規加入量調査^{*3)}の結果（図 5）では、今期に漁獲対象となることが予想される外套背長 5cm 以上のスルメイカが、大和堆の南西沖で多く採集された。1 調査点あたりの平均採集個体数は 35.0 個体であり、近年平均（33.0 個体）を上回ったが、昨年（54.5 個体：外套背長 5cm 未満が中心）を下回った。ただし、外套背長 5cm 以上の個体では平均 25.4 個体であり、近年平均（16.3 個体）および昨年（20.0 個体）を上回った。これらは今後、北陸以北に来遊し、漁獲対象となると予想される。

*3) 新規加入量調査：口径 10m～12m の表層トロール網を用いた採集調査。各調査点で 3ノットの速度で 30 分間曳網して外套背長 2～10cm のスルメイカを採集する。

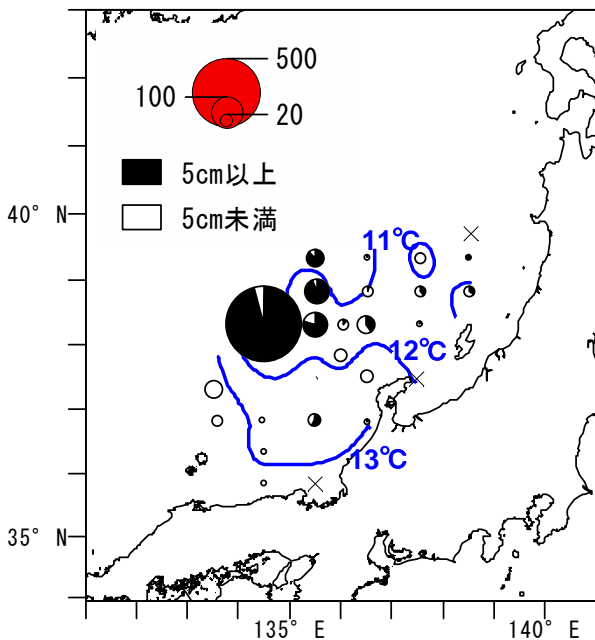


図 5 2008 年 4 月のスルメイカ新規加入量調査結果
 (○の面積は採集個体数, ×は採集されなかった調査点)。表面水温分布を合わせて示す。

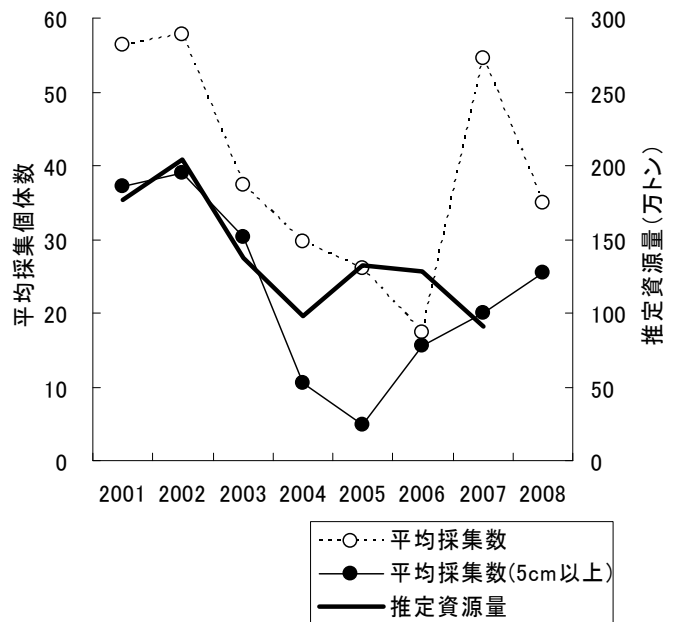


図 6 新規加入量調査における平均採集個体数と推定資源量の経年変化

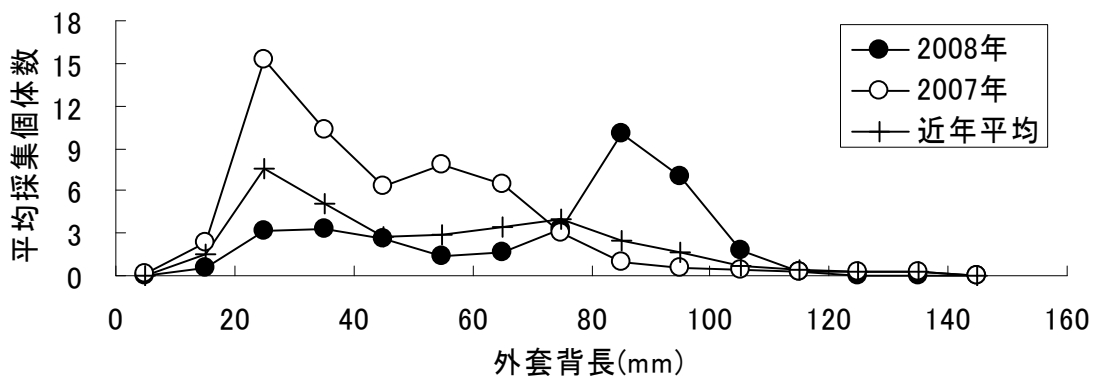


図 7 新規加入量調査における外套背長階級別平均採集個体数

参 画 機 関

北海道立中央水産試験場	兵庫県但馬水産技術センター
青森県水産総合研究センター	鳥取県水産試験場
秋田県水産振興センター	島根県水産技術センター
山形県水産試験場	山口県水産研究センター
新潟県水産海洋研究所	長崎県総合水産試験場
富山県農林水産総合技術センター	社団法人 漁業情報サービスセンター
石川県水産総合センター	水産庁 増殖推進部 漁場資源課
福井県水産試験場	独立行政法人 水産総合研究センター
京都府立海洋センター	北海道区水産研究所
	東北区水産研究所
	日本海区水産研究所